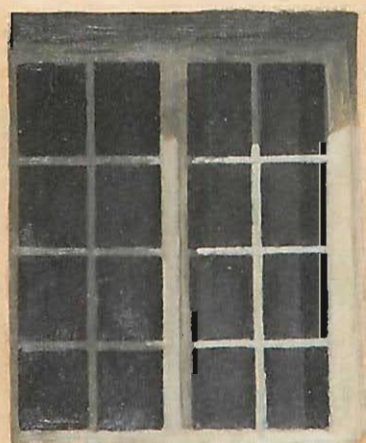
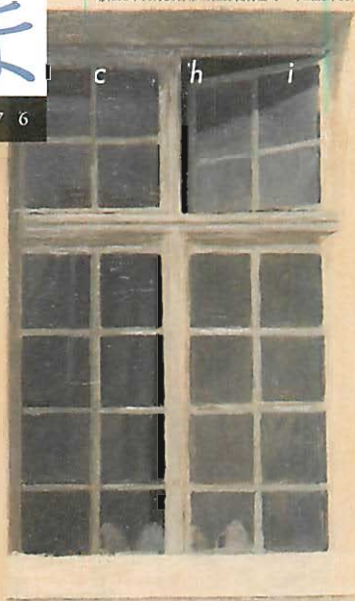


ちくま

2010 NO. 476

昭和55年10月23日第三種郵便物認可 平成22年11月1日発行 (毎月1回1日発行・通巻476号) ISSN 9914-9163



11

表紙裏

[ふるほんのほこり]23・仰天動棚 | 林哲夫

巻頭随筆

[人間、とりあえず主義]146・若いお役人の訓練 | なだいなだ……………2

[テレビ幻魔館]27・日本・秋霜烈日 | 佐野真一……………4

筑摩書房70周年記念特別講演 「筑摩選書」創刊への期待 | 永江朗……………6

筑摩選書創刊一挙六点! 編集担当者が語る「この一冊」| ……………12

龍馬が師と敬った男 | 徳永洋……………16

おもしろうてやがてかなしき——茨木さんに聞いてみたかった | 栗田亘……………18

嗜好品は何をもたらすのか? | 雑賀恵子……………20

新連載

[この世は落語] 1 | 中野翠……………24

[沖縄の光を残した人・鎌倉芳太郎伝] 1 | 与那原恵……………28

[剣の法] 1・なぜ〈日本刀〉は生まれたのか | 前田英樹……………34

連載

[いしへ東京歳事記]40・ゆれっ子 | 鈴木理生……………22

[わたしの、東京物語]17・赤坂(上) | 小林信彦……………38

[寝言戯言]10 | 保坂和志……………40

[世の中ラボ] 8・「大きな政府論」時代錯誤説に異議あり | 斎藤美奈子……………46

[探訪記者松崎天民・第三部] 8・「東京の女」をめぐる謎 | 坪内祐三……………50

[ネにもつタイプ]105・瓶記 | 岸本佐知子……………54

[神田神保町書肆街考] 5 | 鹿島茂……………56

[珍本通読]14 | 古田博司……………62

[旅情酒場をゆく]19・港ではない横浜で | 井上理津子……………64

[青春の光芒——異才・高橋貞樹の生涯]42 | 沖浦和光……………68

[話虫干 story debugger]14 | 小路幸也……………72

コラム

[佐渡ヶ島と地下街] 1・日本で三番目に古い地下街 | 喜多村さやか……………80

表紙絵 林哲夫

表紙・本文デザイン・カット 吉田篤弘・吉田浩美

東京・浅草のとある地下街で、居酒屋を女一人で営んで一年になる。

開店以来、「なぜ、浅草に」と、お客様からよく聞かれる。その言葉には「なぜこんな古びた地下街に」という疑問のニュアンスが滲んでいる。そう、ここは折り紙つきの古さを誇る「浅草名所」だ。

東京メトロ浅草駅直結、「浅草地下商店街」。戦前に出来た日本最古の地下街「神田須田町地下鉄ストア」、戦後建築された銀座「三原橋地下街」に次いで、日本で三番めに古い地下街である。昭和十九年、浅草地下街は戦後復興の象徴として、当時の最新技術を導入して建築されたと聞く。東京一の大都市・浅草の地下鉄駅前には、戦火に耐えた松屋百貨店があり、当時の一等地だ。完成した地下街は活況に沸き、店子はずいぶん儲けたそうである。

さて、時代は移って現在。新しい地下鉄が通り、雷門周辺がますます賑やかになるのと反比例して、かつて華やいだ地下街は寂れ、知る人ぞ知る、知らない人は浅草人でも知らない、マニアックなスポットとなった。

喜多村さやか

日本で三番目に古い地下街

佐渡ヶ島と地下街1

今となつては、商業施設にしては暗い照明。配管がむき出しのままの天井との相乗効果で、地下街はちよつとしたダンジョンの横相である。雨が降れば下水があふれ、管理人さんがバキュームで吸っている。寿司屋の奥は雨水の水漏れポイント。既に図面は失われており、作りも古いので、工事してもうまく直らないそうだ。三十年余り営業している飲食店には昔馴染みの客が立ち寄るが、「常連さんが順番に死んでつちやうのよ」とママ。中古ビデオ屋の看板は「浅草シユーズ」のまま。記載された電話番号の市内局番は三桁。東京の市内局番が四桁になったのは二十年前だから、この看板は二十年以上前からこのままの状態で、後継の店子に受け継がれてきたことになる。

夏場は最悪だ。当時の最新式「水冷式冷房システム」。現在は故障すると修理も交換も利かず、一軒また一軒と「冷房のない店」になっていく。当店も常連をしてお店のことが好きだけど、来るのに「お店のことと言わしめる暑さであった。昭和最後時が止まった場所。明るい地上から地下へと階段を下る気分は「昭

和探検隊、いざ冒険の旅へ」ってなもので「この雰囲気がい」という愛好家も多い。

それにしてもこのレトロ感。最近はやっている「レトロ風」ではない本物の古さである。古いにしてもほどがある。なぜこんなに放っておかれているのか。

地下鉄直結でありながら、浅草地下街は東京メトロとは無関係の会社が運営している。経営者の社長さんは、だいぶお年を召して病気がち。株主の方も多くが亡くなっており、会社は休眠状態で、「相談されても、決められない」と言う。なんーじゃそりゃ。聞いたときにはずつこけて椅子から落ちそうになった。ゆるい、ゆるいぞ、浅草。

現在では、店子によってほぼ自治運営されている地下街。よくも悪くも、作り物ではない生のままの昭和をこれだけ残した場所はない。スカイツリーもいけれど、こういう場所も大事にしてさ、日本の文化遺産に、せめて台東区の文化遺産にでもしたらと思うんですけど、どうでしょう。

（またむら・さやか「佐渡の酒と肴だつちや」店主

小社刊行物ご注文方法のお知らせ

■書店にご注文の場合

店頭がない場合には書店にご注文下さい。取り寄せてもらえます。
書店への取り寄せを、小社に直接ご依頼下さってもけっこうです。

■小社に直接ご注文の場合

小社に直接ご注文の場合は、下記の筑摩書房サービスセンターまで電話・FAX・ハガキのいずれかにてご連絡下さい。また、筑摩書房ホームページからもご注文できます。

URL : <http://www.chikumashobo.co.jp/>

※お支払い方法

代金引換の宅配便でお届け

- お支払い お届け時に、書籍と引換にお支払い下さい。
- 送料 1回のお届けにつき何冊でも380円。
ご注文の定価合計が5,250円以上の場合は無料です。

「ちくま」定期購読のおすすめ

「ちくま」購読料は1年分1,000円です。複数年のお申し込みも承ります。
ご希望の方は、下記の筑摩書房サービスセンターまでご連絡下さい。
また、本誌をおすすめできるご友人をご紹介下さい。見本誌を送らせていただきます。お届け先のお名前とご住所をお知らせ下さい。ふりがなも願います。新規の方は何月号からか、住所変更等お知らせいただく場合は読者コードを、お教え下さい。

筑摩書房サービスセンター
受付時間 平日・9時～17時
(除昼休12時～13時
年末年始・夏期休業・社休日あり)
〒331-8507
さいたま市北区榑引町2-604
TEL 048(651)0053
FAX 048(666)4648
郵便振替口座
(株式会社筑摩書房 00160-8-4123)

編集室から

*新連載が始まりました。中野翠さん「この世は落語」、与那原恵さん「沖繩の光を残した人・鎌倉芳太郎伝」、前田英樹さん「剣の法」の3本です。ご愛読ください。
*小社創業70周年記念企画、ちくま文庫・ちくま学芸文庫復刊50点が出そろいました。お買い逃がしのないようお願いいたします。
*新シリーズ「筑摩選世」が刊行開始となりました。詳細は本誌記事をご覧ください。
(A)